

サーキュラー・エコノミーに向けて舵を切る

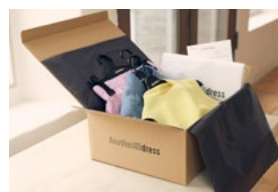


大量生産・大量消費・大量廃棄が前提となる直線型のリニア・エコノミーにより、資源不足、地球温暖化、廃棄物処理の問題などが深刻化する中、サーキュラー・エコノミーの重要性が高まっています。当社グループは、2021年度からマテリアリティに「サーキュラー・エコノミーの推進」を掲げ、環境課題に係るリスク低減と、新たなビジネス機会獲得の両立を目指しています。

環境に配慮したファッションサブスクリプション事業

2021年3月にスタートしたファッションサブスクリプション事業「AnotherADdress（アナザーアドレス）」は、“服は使い捨てではない”という信念のもと、ファッションの本質的な価値や、サステナブルな取り組みを重視し、社会や環境にとって持続性の高いビジネスモデルへ転換することを目指すサービスです。

2023年3月、お客様からの要望が多かったメンズアイテムを新たにラインナップに加えました。男性のお客様はもちろん、ジェンダーレスにファッションを楽しみたいという幅広いニーズに応えることで、ファッションの愉しさを「より自由に」「より多くの方に」提供していきます。また事業拡大に合わせて、再利用可能なガーメントバッグを用いた日本初の循環型配送を導入しました。これにより、お客様への配送時における段ボールの使用を全廃し、ビニールの使用量も30%削減（当社比）を実現します。アナザーアドレスは、今後も環境配慮型のビジネスモデルを追求していきます。



従来の配送方法



再利用可能なガーメントバッグ

お客様とともに取り組む「エコフ」

大丸松坂屋百貨店はサステナブルな商品やライフスタイルを提案する「Think GREEN」活動に取り組んでいます。2016年度からスタートした「エコフ」は、百貨店の店頭において、お客様から不要な衣料品や靴、バッグなどを回収し、新たな素材や製品に再資源化・再利用化する持続可能な取り組みです。

お客様の環境意識の高まりと積極的な参加によって毎年成長を続け、2022年度の回収量は36.7t（2016年度からの累計回収量1,468t）となり、参加者も過去最高を記録しました。2023年春のキャンペーンでは、大丸福岡天神店と福岡PARCOが共同開催するなど、さらに取り組みを拡大しています。

なお、2022年度は、エコフ寄付活動の取り組みとして、環境課題解決に取り組む4団体へ200万円の寄付を行いました。



プラスチックの資源循環

大丸東京店、松坂屋上野店は、2021年12月から、衣料品の納品時に付帯するプラスチック製カバーの回収・リサイクルを行う「POOL PROJECT TOKYO」に参画しています。



これは、レコテック株式会社が、東京都内の参画商業施設から発生したプラスチック製カバーを回収し、高度マテリアルリサイクルを行う取り組みです。再生されたプラスチックは、発生元から輸送・減容・加工などの全ての過程でトレーサビリティがとれたPCR材※「POOL樹脂」として製造業者へ販売されます。

今後、新たな製品化や事業化が検討されており、当社グループも、このような取り組みに参画することで積極的に資源循環を推進していきます。

※消費者が製品を使用した後に回収されるリサイクル材であるポストコンシューマーリサイクル材

食廃油から国産SAF (持続可能な航空燃料) の製造を目指す「Fry to Fly Project」へ参画

Fry to Fly Project



大丸松坂屋百貨店は、持続可能な航空燃料 (SAF:Sustainable Aviation Fuel) の国内初となる大規模生産を目指した食廃油の資源循環の取り組み「Fry to Fly Project」に参画しています。本プロジェクトは、設立趣旨に賛同する参加企業・自治体・団体が相互に連携し、トレーサビリティを明確にしながら、家庭や店舗等から排出される食廃油が資源として回収されるための環境づくりを促進しています。

2023年9月、大丸松坂屋百貨店は、日揮ホールディングス株式会社、株式会社レポインターナショナル、合同会社SAFFAIRE SKY ENERGYの3社と百貨店業界初となる国産SAF製造を目的とした食廃油の供給に協力する基本合意書を締結しました。全店舗の総排出量の15%を占める、大丸心斎橋店、大丸芦屋店でSAFの原料となる食廃油の提供を開始しており、今後、提供店舗拡大に向け取り組んでいます。

また、国産SAFの認知向上、普及の契機となるイベントなどを通して、お客様に脱炭素に貢献する資源循環の重要性を継続的に伝えていきます。

サプライチェーンの構築 JGC



※当社の店舗から排出される食廃油をレポインターナショナルが収集し、SAFFAIRE SKY ENERGYへ引き渡します。SAFFAIRE SKY ENERGYは、2024年度下期～2025年度初頭の生産開始を目指し、大阪府堺市で建設中の日本初となる国産SAFの大規模生産プラントにおいて、レポインターナショナルから引き取った食廃油を原料としてSAFを製造します。日揮HDIは、食廃油を原料とするSAF製造事業に関するサプライチェーンの全体構築を行います。

廃プラスチック削減に向けて

大丸松坂屋百貨店では、2022年4月に施行された「プラスチック資源循環促進法」施行を受け、使い捨てプラスチックの排出量抑制に取り組んでいます。特定プラスチック使用製品*については、①カトラリーの有料化、②お客様へのお声がけ(必要な方にのみ提供)、③カトラリーの素材変更のいずれかを、お取引先様との協働で実施し、お客様のご理解を得ながら使用量の削減を推進しています。

※商品の販売または役務の提供に付随して消費者に無償で提供されるプラスチック使用製品



2022年度 使い捨てプラスチック製品 使用量削減実績

削減目標 (2021年度比)	実績		
	使用量(原単位)*	削減率	達成率
▲20%	0.1623	▲48.7%	+243.7%

※単位設定：協働するお取引先様の店舗における使い捨てプラスチック製品使用量合計(kg)/協働するお取引先様の店舗における売上高(百万円)

博多大丸では、2022年11月、長崎県対馬市と「SDGs推進に関する包括連携協定」を締結しました。地形や海流など様々な要因によってもたらされる対馬市の海洋プラスチックごみ問題へのアプローチとして、漂着した海洋プラスチックごみをオーナメントにアップサイクルしたクリスマスツリーを作成し、店舗前広場に飾りました。ツリーの足元には、対馬市の海岸の現状を伝えるパネル展示を行い、プラスチックごみを削減するためには、一人ひとりの行動変容が必要であることを訴求しました。



海洋プラスチックごみをアップサイクルした
オーナメント



対馬市の海ごみの現状を伝える
パネル展示

装飾にアップサイクル

大丸松坂屋百貨店は、季節ごとに入れ替えが生じるイベント装飾物の廃棄に課題意識を持っています。

2022年のクリスマスシーズンに、松坂屋名古屋店で展示されたネップ・アート クリスマスツリーは、廃棄予定のコットンのリサイクルした紙で作られた青森県五所川原の立佞武多(たちねぶた)を、さらにアップサイクルして制作されました。展示後は、丁寧にはがされた後、青森県産の流通されない規格外のリングで醸造したシードルのラベルに活用されました。



ネップ・アート循環型クリスマスツリー

サステナブルな商業施設

渋谷PARCOは、2022年11月、4階を大規模リニューアルしました。ヴィンテージショップ、インテリア・アートショップが新たに店出し、「リユース/受け継ぐ」「リプロダクト/作り直す」「ハンドクラフト/手仕事の重要性」の3つのテーマで「サステナブル」を表現しています。

今回の改装では、テナントの入れ替え時の内装変更に伴う廃棄物削減、内装の投資をなるべく抑えながら、最低限のコストで出店できる仕組みを取り入れ、よりサステナブルな商業施設を実現しました。これにより、若いスタートアップブランドやクリエイターも出店しやすくなりました。



渋谷PARCO 金三昧「Chim↑Pom from Smappa! Group」による実験的プロジェクトショップ

端材に命をふきこむプロジェクト

ホテルやオフィスの内装などを手がけるJ.フロント建装では、内装建材などの製造過程で、木の切れ端や使えなくなったフィルムなどの端材が発生していました。これを活用すべく、大阪芸術大学とタッグを組んだのが、「端材に命をふきこむプロジェクト」です。

学生が、豊かな想像力と柔軟なデザイン力で、端材という不揃いな面白さと向き合いながら、ユニークな作品を制作し、デザインコンペの入賞作品は、大丸心斎橋店で展示しました。

当社グループのサステナビリティにける思いと学生たちのものづくりに対する思いが、見事に結実するプロジェクトとなりました。



最優秀賞作品

ユーティリティ賞作品